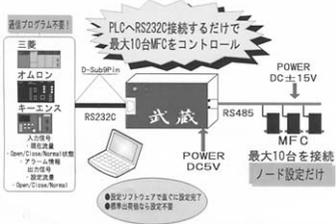


現場の声を聞いて開発された 『武蔵シリーズ』が話題！

佐々木設計

佐々木設計（東京都福生市福生一〇三七・和光ビル、☎〇四二一五一一〇六七五）は、昨年の十二月五日〜七日まで幕張メッセで開催された「セミコンジヤパン」に、プロトコル変換器「武蔵シリーズ」を紹介し、好評を博した。半導体製造の現場においては流体の流量制御を行うマスフローコントローラを利用するが、このマスフローコントローラをCC-Link i n kで使用したいというニーズが高まっている。同社の「CC-Link 対応版 武蔵」は、そうした声を形にしたプロトコル変換器である。利用方法は、マスフローコントローラと本体をシリアルケーブルで接続し、更にPLCと本体をCC-Link接続するだけ。通信プログラムは不要。アナログ入力/出力ユニットも不要ですぐにマスフローコントローラとつながり利用することができる。最大16台のマスフローコントローラと接続することができる。



シリアル通信用 武蔵のシステム構成例

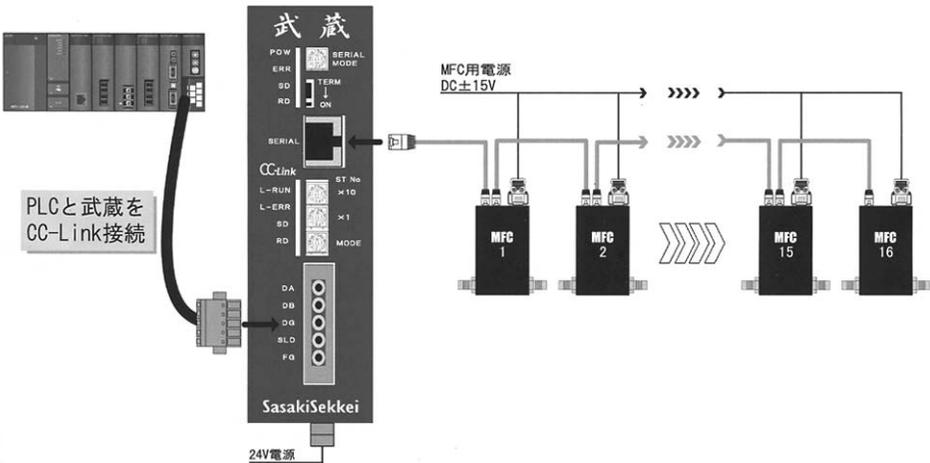


シリアル通信用 武蔵

面倒な通信プログラムは 不要ですぐに接続できる

通信プログラムを開発するには、スキルと開発時間が大きな壁となり、四苦八苦して作り上げているが、その結果は期待する結果にはほど遠く、やむなく断念するケースも少なくない。——といった現場のニーズに対応して開発されたゲートウェイユニットであ

る。利用方法は、マスフローコントローラをRJ45コネクタで、PLCをRS232Cで接続し、専用の設定用アプリケーションを用いて、通信速度、接続台数といたったいくつかの項目を設定するだけ。設定はワイザールに沿って操作するだけで簡単につながる。面倒な通信用のラダープログラムを開発する必要が U R L = <http://www.ssk-dsn.com/>



CC-Link 対応版 武蔵のシステム構成例